

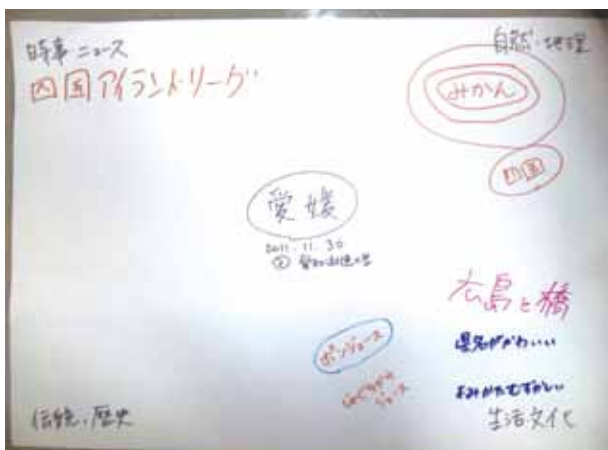
多様で 豊かな物語を 地域に

愛知淑徳大学メディアプロデュース学部
准教授 小川明子



■愛媛のイメージ

これは、愛知県の学生が書きこんだ愛媛県のイメージマップだ。イメージマップとは、その地域にどんなイメージがあるのか、集団で紙に書き込んで可視化する試みだ。他の人が書き込んだイメージに自分も同意する場合には、そのイメージを○で囲む。つまり多くの人が共通して抱くイメージは囲まれて大きくなっていく。愛媛県のみならずから「道後温泉を忘れていないか」「坊ちゃんは何？」とお叱りが聞こえてきそうなおマップだが、愛知県の学生は他に思いつかなかったようだ。どんなに思い出しても知らずばらしい景色、文化があったとしても知



愛媛のイメージマップ

らされなければ認識されない。旅はその典型であり、視覚的／文学的なイメージが提示されて、初めて行きたくなるものなのだ。

■ソーシャル・メディアで情報発信

これまでこうした地域の情報は、主にマス・メディアや旅行関連のメディアでしか伝わらなかった。マス・メディアとは、少数の情報の送り手たちが、伝えるべき情報を選別し、不特定多数の大衆に向けて発信する中央集権的なシステムであり、私たちは百年近くそのもとで暮らしてきた。その間、地域について語るのには、客観的に地域のあれこれを記述する専門職としての記者であり、住民はその視点を通して、自らの地域のできごとをまるで彼方で起こっているかのように眺めてきたといえる。

一方、ここ数年フェイスブックやミクシイ、ツイッターなどの「ソーシャル・メディア」と呼ばれる新たなウェブ系メディアを使えば、誰もが簡単に情報や気持ちを発信でき、また誰かの情報にコメントしたり、転送したりできるようになった。これらのメディアでは、日々おびただしい数のつぶやきや画像、情報や映像が公開され、個人的なネットワークを通じて世界中に広がっている。観光局やマス・メディア、広告会社に通じて、地方の文化や祭り、産業についても自ら発信できるようになった。逆に言えば、新たなメディアを使った情報発信競争が始まっている。

注目される地域の「物語」

簡単に発信されたおびただしい量の情報が行き交うことで、情報はすぐに消費され、忘れ去られてゆく。そのなかで、人びとの心に留められるためにはどうしたらいいのだろうか。

その一つの鍵となるのが物語ではないだろうか。たとえば、単に地酒の情報を公開するのではなく、その地酒をめぐる歴史や思い入れ、人びとの試行錯誤などのストーリーがともに伝えられることで、受け手はその商品により親しみを感じるようになる。他に地域の祭りなども、地元住民の目線からストーリーを描くことによって、祭りの面白さが受け手に多面的に伝わって面白い。動画ならなおさら印象的かもしれない。以前、ある大学生が地元の浜松まつりに参加するときの自分の気持ちを描いた映像を見たのだが、隣の若者たちとの見栄の張り合いや髪飾りがどこにいったかわからなくなるほどの採み合い、その髪飾りを翌年の祭りで隣の女の子の頭に見つけたときの怒りなど、祭りをめぐるいきいきとした豊かな物語に、新聞やテレビニュースとは違う、祭りの本質的な楽しさを感じた。

物語とメディアのつなげば地域

物語には不思議な力がある。人間は太古の昔から、物語を通じて世の中の道徳や因果を理解し、地域の経験を共有してきた。

子どもたちは、昔話や民話、もしかしたら今ではデイズニーやアニメの物語に触れることで、ごく自然に社会において望ましい生き方を身につけてゆく。地域社会に目を移せば、伝説や民話は地域の歴史や経験を語り継ぎ、後世の人びとに教訓や地域の誇りを伝えてきた。昔、厩戸裏端や井戸端で交換されていたこれらの物語は、今も形こそ違えど各々の日常のなかで生まれ続けている。ただ私たちは、今、新しいメディアの隆盛の裏で、それを共有し、語り継ぐ空間を失いつつある。

冒頭に述べたように、私たちは知らされなければ、認識することができない。地域社会で日々生成される面白い物語を見つけてだして丁寧な拾い上げ、住民たちの間で交換、共有し、時に新たに自分たちで地域の物語を作り上げてゆくことは、同じ地域で生活する私たちの生活にも豊かな意味を与え、「私たち」という感覚を生み出すことにつながる。そのためには、物語を共有する空間―それはおそろく喫茶店やスポーツクラブなどのコミュニケーション空間や地域メディアやウェブなどのメディア―の役割が重要になるだろう。東京のマス・メディアによって一方的に描かれ続けた一面的なステレオタイプではなくて、自分たちで地域の物語を掘り起こし、ともに共有し、外に発信してゆくメディア

活動を私たち住民自身が引き受けることが、新しい地域のかたちを作りだすことにつながる。どうだろうか。

住民たちが写真と声で日常のあれこれを語る映像実践「デジタル・ストーリーテリング」が注目されている。詳しくはメディア・コンテンツウェブサイトで <http://mediaconte.net>

